

知事になった四年前、経済と雇用はどん底の状態でした。経済再生や道庁改革など百五本の政策を掲げ、取り組んだ結果、薄明かりが見えてきました。方向性は正しかった。だから、それをさらに深掘りするため、再び出馬表明しました。

この四年間、「道民は家族だ」と思いながら政策を展開し、道民の暮らしをいかに高めるかを考えてきました。これが最重要課題です。

この実現に向け、力強い経済構造の構築、一次産業の振興、雇用環境の確保、医療・子育て支援など安心、安全の地域社会づくり、環境重視、インフラ整備などが必要だと考えています。そのために、市町村長や地域住民、民間企業の方々と対話、連

## さらに改革進める

携を深め、達成したいと思っています。さらに、北海道は道州制特区法というツール(道具)を得ました。この枠組みを活用し、医療、環境、農業などの課題に対応するため、同法の枠組みを最大限活用し、活性化につなげたい。

また、開かれた道政を掲げ、週一回記者会見をしています。今後も道民に道庁の考えを伝えるため、記者会見を中心に情報発信していきます。

この四年間、災害対応が多かった。いち早く現場に行き住民と話し、現場を確認した上で、道庁に戻って政策協議をし、国に必要な要請をしてきました。この姿勢で仕事を進めていきます。

出馬表明後、道内百四十市町村を回り、地方の疲弊を痛感しました。私が描く四年後の北海道を説明します。

ある田舎の喫茶店の屋下がり。東京から帰ってきた若者がおしゃべりな喫茶店を開きました。あるテーブルでは、お母さんが子供にニンジンを残さないよう、しかっています。別の席では、中国人のビジネススマンが道産農産物を中国に輸入しようと商談中。

外を見ると、花粉の時期を避け、東京から留学中の高校生十数人が歩いています。中学生がおばあさんを車いすに乗せて押している姿もあります。鉄道専用車西ユアール・モーター・ビークルも走り、子供連れのお

## 低迷の現状変える

なかの大きいお母さんが降りてきました。出産を控え健診にきたのでしよう。

豊かで平和でお互いに助け合う社会。四年後、こんな光景が北海道のあちこちで見られるのが理想です。しかし、どの光景も今の北海道では不可能です。医者はいない。農業は窮地に立ち、団塊の世代は古里に戻れません。こんな北海道を変えるのが政策テーマです。

まず、百日以内実践する政策を六つ掲げました。医者がいない地域をなくす。第二の夕張をつくらせないなどです。さらに、私は道民一人当たりの所得を全国ベストテンに引き上げ、有効求人倍率は一倍超、出生率は全国平均並みにします。

北海道ではこの四年間、年金が一円も上がらないのに、税金が五倍になりました。介護保険も国民健康保険料も値上げされました。雇用では若者は履歴書を出しても面接すら受けられません。地方では病院も公立高校も消えつつあり、悲鳴が聞こえます。

地方自治体の一番の任事は、住民の暮らし、福祉を守ること。そのため、今の政治を大本から変える決意です。

難病患者の医療費の助成など、北海道で削られてきた暮らしや福祉を元に戻します。財源は大規模林道など無駄な大型開発の見直しです。子供の将来ですが、いじめ問題は深刻です。そのため、少人数学級を

## 暮らしと福祉守る

実現します。また、北海道は港も航空自衛隊千歳基地も道東の矢野別演習場も米軍の訓練基地になろうとしています。憲法九条を守り、平和な北海道を目指します。金と政治の問題決着のため、企業献金の禁止、道幹部職員の天下り禁止、口利き防止条例を制定します。

無駄な公共事業をやめて、学校の修復や保育園の増設など、地元建設会社が直接受けられる仕事を増やせば、地域に金が落ちて道民の懐が温まり、消費が増えて経済を活性化できます。

国が進める構造改革によって貧困が生まれ、格差が広がりました。構造改革をきっちり反省し、道民と一緒に取り組む知事になります。



北海道知事 高橋はるみ氏



衆院議員 荒井 聡氏



共産党道委道民生活本部長 宮内 聡氏

# 知事選 公開討論会

二十一日告示、四月八日投票の道知事選に立候補を表明している現職の高橋はるみ(みよこ)氏、自民、公明推薦、衆院議員の荒井聡(さとし)氏、民主、社民、新党大地推薦、共産党道委道民生活本部長の宮内聡(さとし)氏、共産公認の三氏(立候補表明)は、十四日、札幌市中央区の道新ホールで開かれた公開討論会「どうする北海道」(北海道新聞社主催)で、出馬への決意、道政への意欲を熱く語った。低賃金を続ける北海道経済や医師不足などで危機に直面している地域医療、財政再建団体に移行した夕張市の問題などをめぐる活発な議論に約四百人の聴衆も熱心に耳を傾けた。

(司会は清野佳明・北海道新聞報道本部長)

討論会の映像は十六日午後から北海道新聞のホームページ(www.hokkaido-np.co.jp)の「統一地方選(道内分)」で見られます。

## 地場産業育成図る 荒井氏 大企業優遇見直す 宮内氏 製造業の誘致に力 高橋氏

### 経済活性化

「地域経済と格差問題」といいますが、企業の現状をどう認識し、どう変えますか。

荒井 市町村が窮乏したのは、国が地方交付税を大幅に削減したからです。今後三年間はまず、地域型公共事業を集中的に行い、その間に業種転換を進めるか、地域に根差した地場産業をつくり出す。高橋さんは大企業誘

す。年収二百万円程度の「子供を産み育てることも誘致補助金を十二社に百若者が多く、結婚できず」できません。道は、大企業 四十億円出し、中小企業 五万人に減っています。

道は農業予算の四分の三の千五百億円が農業土木の分野に使われていいます。必要な土地改良などもありませんが、産直や特産品の支援などに農業予算を切り替え、地域をしっかりと支えます。

高橋 この四年間で失業者は二十万人から十万人に減っています。

## 支庁の機能を拡大 荒井氏 無駄な開発にメス 宮内氏

### 行財政改革

道の財政再建、市町村振興の考えは。高橋 道財政を家計に例えれば、収入が月四千

八万七千円なのに五万九千円の赤字があり、これを解消しなければ破産する状態です。二年、五年、十年と節目を決めて改革を進めており、試算では二〇一四年には若干ではあります。貯金ができず、これを子供たちや福祉のために使います。

荒井 道職員給与の10%カットは評価します。

北海道の有効求人倍率はバブル期でさえ〇・七倍程度でした。経済産業構造に問題があるからで、バランス良く力強い構造をつくりたい。ものづく

道は、道庁特定財源の中に道路臨時整備交付金がありますが、昨年今今年も増額を要求して満額取っています。

ただ、民間会社で言えば、給与カットは経営者の最後の手段。その意味で私は役員報酬に相当する知事の退職金を返上します。経営が苦しくなったなら、一番大事にするのは営業部門。削減するのは総務部門。道庁という営業現場に最も近い各支庁を拡充し、権限を与えることが必要です。

宮内 道財政がなせなくて深刻になったかの反省がありません。大型公共事業を進めてきたことが問題です。無駄な開発にメスを入れれば、暮らしや福祉に回せます。また、二億一三億円規模の地方の建設会社向けの

# 道政担う意欲力強く

仕事を増やせる。市町村合併は国の押し付けには反対という市町村と手を握っています。

高橋 支庁の重要性は認識していますが、現行支庁制度は明治時代でできたもの。環境変化の中で見直しはしっかりやらなければなりません。

荒井さんの言う支庁機能強化は、組織肥大化につながりませんか。荒井 札幌にいても地域は支えられません。地域に一番近い道職員が責任を持って地域を支える体制が必要です。人件費削減を考えると、まず札幌にある本庁の職員定数を削減すべきです。

宮内さんは道の行財政改革の撤回を主張していますが、歳出が大幅に増えませんか。大型公共事業の廃止だけで財源は確保できますか。宮内 できると思いません。無駄な大型開発はたくさんあります。財源は公共事業の落ち率を10%下げただけで三百億円が生まれます。全国では、大企業に対する法人事業税の超過課税を実施しているのに、北海道はやっていない。節約と新たな収入確保を併せれば立て直しは可能です。

# 財政、医療 課題は山積

## 再建へ交付税投入 荒井氏 連鎖防止こそ大切 高橋氏

### 夕張問題

夕張問題で何を教えますか。荒井 夕張が石炭産業に道がどう生かされるか。



を観光産業に切り替える際、国は奨励し助成もした。多額の補助金や地方債を多額に出したのに、財政状況を見抜けなかったのは、国も道も十分に調査していなかったからです。国は、夕張問題を教訓に自治体の新たな破たん法則を作ろうとしています。拓銀破たん後、他銀行救済のため金融再生法を作った

## 助産師外来を創設 高橋氏 退職した人材活用 荒井氏 医大の定員増必要 宮内氏

### 地域医療

地方病院の医師不足など、道民の暮らしに密着した医療問題にどう対応しますか。

高橋 地域医療は最重要課題です。独自に派遣枠を拡充したり、ドクターバンクをつくるなどしてきましたが、医師を道職員として採用し過疎地に約400人の聴察がつかい、3氏の訴えに真剣に耳を傾けた

時に似ています。破たん法則ができるまで待てなかったのでしょうか。本当に困っている市町村をお互いに助け合おうという同意があれば、市町村共通の財源である地方交付税で助けられたいです。交付税の一部を財政再建に充ててもいい。

昨年六月に財政再建団体になることを決めた際、住民から「もう住めない」という声を聞き、私は道に対して「夕張で普通に暮らせることをしっかり明言しなさい」と提言しましたが、道から温かい言葉はなかった。道の責任を強く感じます。

ある医療を誰が守るか。知事の責任で守るのです。今すぐ派遣しなればいけない医師は、知事が東京に行っても探してやる。定年退職した医師に地域医療を担ってもらうことも可能です。

高橋 道職員として採用し、道立病院への派遣も、それ以外の病院への派遣もあり得るという中で議論を深めて、地域の医師不足解消に当たりたいと考えています。

荒井 根室の妊婦が出産のために、釧路まで四時間かけて移動するといった例もあります。今年四月の札幌医大の独立行政法人化は誤った政策です。独法化とは、民間の発想でお金をもつづけること。

宮内 医師を道職員として採用するといっても、道立病院の医師不足は薄く、保健所の医師や(一線を退いた)助産師に再出動してもらおうなど、地域医療の担い手発掘も必要です。

宮内 医師の数が足りない。国は偏任という考えは思いません。道がケアすれば解決できます。まずは医師が足りないと認めることが大切。定員増をしなれば、何年たっても状況は変わりません。

宮内 地方自治は、住民自治と団体自治が基本だと思っています。国は合併を押し付けていますが、

荒井 本間に必要な事業は地域じゃないと分かれません。でも、国が事業費の一部を負担してくれるから、必要でなくても補助金を利用して事業規模を大きくしてしまう

## 討論会を聞いて

北大公共政策大学院教授

石井 吉春



## 政策の核を示さず

公開討論会でのやりとりについて、北大公共政策大学院の石井吉春教授(地域政策)に、その評価と感想を聞いた。

高橋はるみさん、荒井聡さん、宮内聡さんがそれぞれ訴えた政策には、違いがはっきりと出ていました。ただ、どの政策にも重なる点があるという

強い訴えでも良かったの失われる、悪平等の典型ではないでしょうか。高橋さんは、今の北海道では経済を好転させ、財政再建を果たさないと自由な力が生まれず、福祉分野に力を入れられないと率直に語っていました。道民の側も、こうした現実を共通認識として持つべきです。

荒井さんからは、強い情熱を持って知事選への事業をやめれば、すべて視座も意識して候補者を選ばなければならない。選考すべきだと思います。

いい・よしはる 1976年、一橋大商学部卒。北海道東北開発公庫開発企画部調査課長、日本政策投資銀行四国支店長などを経て2005年4月から現職。仙台市出身。53歳。

優先順位が示されなかった点が残念です。国が大きく変わりつつあるいま、その影響を強職員給与の一律カットを受ける北海道の知事を、予定通り二年間で終わらせたが、それがどう活用したのかが見えません。も

宮内 EPA交渉は道内農業を破壊に導くので絶対許しません。交渉に入るなど主張したのが共産党。交渉入りを決めたのは与党だということばなりません。高橋 一昨日、外相や政府要人に立場を説明し、牛肉などの重要品目を関税撤廃対象から除外することを要請してきま

### 会場からの質問

会場から質問を三つほど寄せられた。まず、新幹線の札幌延伸について、賛成ですか反対ですか。

高橋 公約にも入れておられる。財源的に追加措置が必要ではないかと、道の公共事業予算の中の配分の問題です。インフラ整備の優先順位についての道民調査でも、新幹線は上位に位置づけられています。新幹線の効果は観光面に加え、ビジネスの面でもあると思

## 新幹線延伸を推進 高橋氏 高校統廃合白紙に 宮内氏 EPA阻止全力で 荒井氏

高橋 公約にも入れておられる。財源的に追加措置が必要ではないかと、道の公共事業予算の中の配分の問題です。インフラ整備の優先順位についての道民調査でも、新幹線は上位に位置づけられています。新幹線の効果は観光面に加え、ビジネスの面でもあると思

荒井 統廃合の基礎を白紙にして、いろんな知恵を出すべきです。東京から花粉症の子供を一時受け入れるとか、地域でいろんな特色ある学校づくりが

高橋はるみさん、荒井聡さん、宮内聡さんがそれぞれ訴えた政策には、違いがはっきりと出ていました。ただ、どの政策にも重なる点があるという

強い訴えでも良かったの失われる、悪平等の典型ではないでしょうか。高橋さんは、今の北海道では経済を好転させ、財政再建を果たさないと自由な力が生まれず、福祉分野に力を入れられないと率直に語っていました。道民の側も、こうした現実を共通認識として持つべきです。

荒井さんからは、強い情熱を持って知事選への事業をやめれば、すべて視座も意識して候補者を選ばなければならない。選考すべきだと思います。